

## 本校 吉積 勇人教諭による国際教育講演会「国際協力から考える日本の未来」

吉積先生は、青年海外協力隊員として平成28年の6月から30年の3月まで、ネパールの小学校で英語を教えるなどの活動を行ってきました。6月8日(金)の講演ではネパールの国情や文化についての話から始まり、ネパールの抱える問題点、海外に依存する日本が抱える問題点や国際的な役割、若者へのメッセージなどをわかりやすく説明しました。

最後に熱いメッセージを投げかけられました。「これから活動するときは世界を見据えて」「言葉に出さないと考えていないことと同じ」「人生は一度きり、外に出ていこう」など、どの言葉も生徒の心に響いたようでした。

### 感想文から

本日は貴重なお話を頂きありがとうございました。今までは自分のこの生活が当たり前で、世界の発展途上国の現状などはほとんど知らなかったし、他人事のように感じていました。今日のお話でネパールの現状と、日本社会が海外に依存していることを知り、何も知らなかった自分は無責任だと思いました。テレビや新聞で報道されるような内容ではわからない、先生の実体験を基にしたお話はとても面白かったし、考えさせられることがたくさんありました。今まで私は狭く限られた世界で生きていました。自分が今何か直接的に発展途上国の人々と世界に役に立つことはできませんが、先生のお話にあったように、自分の視野を広げ、世界のことをもっとたくさん知って何かひとつでも役に立てる人になりたいと思いました。

3年5組 秋田 知里 (若浦中学校出身)



## 3年国際文化コース 行永家住宅訪問 (6月13日)

3年国際文化コースの生徒が日本文化の授業で、200年の歴史がある「行永家住宅」(重要文化財)を訪問し、当主の行永壽二郎様よりお話を聞かせて頂きました。行永家は江戸時代末期には大庄屋を務めた旧家で、住宅は丹後地方に現存する最も古い瓦ぶき農家と言われています。生徒達は現代の家では味わうことのできない重厚な母屋の内部、格子状に組まれた梁、土間のかまどなど見学をしました。

### 感想文から

中に入ると土間があり、左手には家畜小屋があり、人間と動物と一緒に暮らしていたのだと感じました。また、小さな寝床があり、使用人がそこで寝ていたと知り大変驚きました。

使われている木が200年以上も前の木材なのに、ぞうきんでふくと色を塗っているようにぴかぴかと輝くと聞いて感動したし、この様な木がこれからも存在し続けるのだと思うと歴史を感じました。

昔の暮らしが様々な所から感じられ、トイレの刀置きや排泄物用の引き出しは興味深かったです。後者はトイレの外の下に置かれ、排泄物を畑に撒いたりするとは今の生活から考えられないので、衝撃的だったのと同時に昔の循環を極めた生活も素敵だなと思いました。

3年4組 森 海羽 (白糸中学校出身)



古いかまど!



## The 9th English Immersion Camp (6月16日)

生徒26名、本校のAET2名と他の府立高校のAET6名及び英語科教員7名の参加で今年も楽しく東高英語集中キャンプを実施し、今年で9回目を数えます。

内容は、①英語ゲーム、たとえば Taboo(相手が出すヒントから推測して素早く答えの単語を言うゲーム。ただし禁止のヒントが設けられている)、Simon Says(Simon Says という語句を言われた場合、そのあとに続く動作の指示に従うゲーム)、Connect Four(ペアの一方がたとえば right/light のような対になる単語を発音し、他方が言い当てていくゲーム)、など。他に、②韓国風チヂミとスープのクッキング ③Photo Scavenger Hunt ゲーム(指示されるものの写真を iPad でできる限りたくさん撮る活動。何を撮ればよいかは英語科教員から与えられる英語のなぞなぞを解けばヒントがもらえる) ④東舞ドルショッピング とあつという間に時間が過ぎました。3年連続参加の人もいます。まだ参加していない人は来年是非してください!

\*参加者のアンケートから\*

①楽しかったですか: 全員が「楽しかった」または「とても楽しかった」。②来年も参加したいですか: Yes 83% ③友達に薦めたいですか: Yes 83% ④楽しかった活動は: 料理 39% Photo Scavenger Hunt 17% ショッピング 13% など ⑤英語キャンプのレベルは: 「簡単」13% 「ふつう」48% 「難しい」26% 「とても難しい」17%

Taboo Game

Cooking

Photo Scavenger Hunt

Shopping



## 東高先生の Another Sky 3回目 川勝 清隆 先生 (国語科)

中国陝西省西安市は、唐の都長安があったところ。私は、ちょっと昔に、そこにある西安外国語大学日語系(日本語学科)で中国人の学生に日本語を教えていました。中国各地から集まった学生は、ほとんどが大学に入ってから日本語の勉強を始めますが、みんなかなりの勉強量で、上級生ともなると日本語がとても流暢でした。授業は90分で途中で必ず休憩を入れることになっていました。天気の良い日は外の芝生で授業をしたこともあります。学生食堂に出発していましたが、本格派のトマト卵麺が2元(約32円)くらいでした。また西安市・陝西省は京都市・府との友好関係があり、留学経験もある中国人の先生も多く、話がありました。もともと中国の大学では、学生、教員とその家族、関係者がみんな構内に住んでいて、ひとつの町のような感じでした。

ところが、3月末の赴任以来、約2か月が経過したところ、NATO軍が中国大使館を誤爆するという事件があり、中国とアメリカとの関係が一気に緊張しました。国内のあちらこちらで抗議活動が頻発する中、大学構内にも学生デモ隊が入ってきました。「専家楼」のそばの門まで押し寄せ、夜中まで大きな声が聞こえました。その翌日、我々外国人教員は食堂に集められ、大学構内にいる限りは安全を保障するが、それ以外は責任が持てないと大学の担当者から告げられました。緊迫感がありました。発言するときも、個人としてだけでなく、日本の国際的な立場をふまえた答えが求められているような気がしました。

やはり大学の外は混乱していました。統率のとれた学生のデモとちがいで、街中のデモには様々な不満を抱えた人が集まるので、不測の事態が十分考えられます。そんなときでもなぜか授業は平常通り。もちろん日本語学科の学生もデモに参加していたので、もし反米が反日になったらどうしようかと心配しましたが、これも至って普通。かえって、「大丈夫でしたか」と聞かれる始末。今回のことについて、学生は「国同士の問題と、人と人との関係はちがいます」と口々に言います。中国人らしい大義の表現でした。

中国では6月は年度の終わり。うそのように平穏な初夏のキャンパス。私は卒業式に出席し、記念パーティーに出かけました…。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

